

# 平成20年度第2回日本海海況予報

## 1. 今後の見通し(2008年7月～9月)

- (1)ウツリヨウ島南東の暖水域は、ほぼ停滞する。隠岐諸島北東の暖水域は、徐々に北東に移動する。但馬沖の暖水域は、東に移動した後、隠岐諸島北東の暖水域と合体する。佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する。男鹿半島沖の暖水域は北上する。津軽半島沖の暖水域は、消滅する。
- (2)島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。山陰・若狭沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しはやや弱い。佐渡島沖の冷水域は、弱い。
- (3)対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4)対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“平年並み”、北部では“やや高め”で経過する。

## 2. 経過(2008年3月～5月)

- (1)3月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、4月に沿岸側の部分が隠岐諸島付近から金沢沖に移動した後、ほぼ停滞。  
3月に若狭湾沖、4月に丹後半島沖でみられた暖水域は、それぞれ東に移動して隠岐諸島北東の暖水域と合体。  
3月に佐渡島北方でみられた暖水域は、北東に移動して男鹿半島沖の暖水域と合体。  
3月に山形沖及び男鹿半島沖でみられた暖水域は、北東～北に移動。  
3月に津軽半島沖でみられた暖水域は、4月に消滅。  
5月に鳥取沖で暖水域が発生。4月にウツリヨウ島南東で暖水域を確認。
- (2)島根沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模は小さく離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は小さくてやや離岸(3月)。
- (3)対馬暖流域の表面水温  
3月:概ね“平年並み”で、佐渡島北西海域では“やや高め”～“かなり高め”の海域が分布。  
4月:隠岐諸島西方で“やや低め”～“かなり低め”の海域が分布するが、それ以外は“平年並み”～“やや高め”で佐渡島以北では“かなり高め”の海域が広範囲に分布。  
5月:隠岐諸島北西及び島根沿岸で“やや低め”～“かなり低め”の海域が分布するが、それ以外は“平年並み”～“やや高め”で、隠岐諸島東方及び男鹿半島沖では“かなり高め”～“はなはだ高め”の海域が分布。
- (4)対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”(1～3月平均)。

## 3. 現況(2008年6月)

- (1)暖水域は、ウツリヨウ島南東、隠岐諸島北東、但馬沖、佐渡島沖、男鹿半島南方及び津軽半島沖に分布。
- (2)島根沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模は小さく離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。
- (3)対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”となり、島根沿岸、山形・秋田沿岸及び積丹半島南西では“かなり低め”の海域が分布。
- (4)対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(4～6月平均)。

(註)引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

“はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

“かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

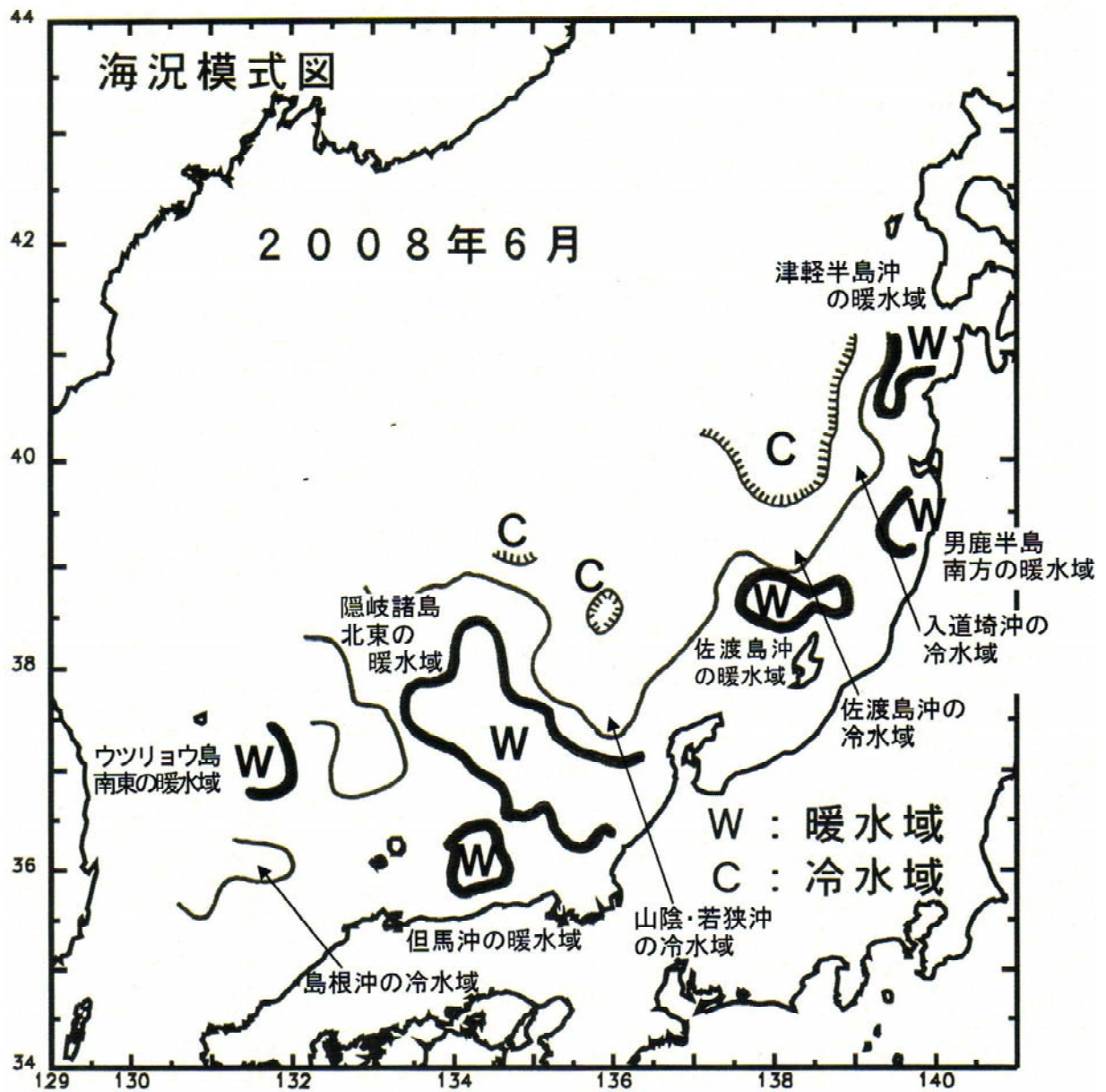
“やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

“平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

“やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

“かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

“はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2008年6月の海況模式図

## 参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術 センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所